

「あわじ環境未来島」

って何？



エネルギーの持続



▷竹資源のエネルギー化

竹は再生可能な天然資源
竹の有効活用で淡路島をさ
らに持続可能な島に



▷地域貢献型再生可能エネルギー事業
(フロートソーラー発電所)

人が、地域が、企業が、
再生エネルギーを考え
きっかけになる事業を

農と食の持続



▷淡路島への農業参入
(北淡路先端ファーム)

淡路島の農作物を通して多
くの人に食の体験を
地元農家の方と地域の持
続への役割も



▷大学農学部との連携
(吉備国際大学)

古くから続く淡路島の農業
を絶やさないよう、
若者の参画に貢献したい

暮らしの持続



▷淡路島の海の自然環境保全

身近なビーチクリーン活動
から地域のつながりを
生活を見直すきっかけとな
る取り組みを次世代へ



▷地域資源を活かした地域活性化
(北淡路)

環境客のにぎわいを地域へ
移住者歓迎のムードが淡路
島全体に広がってほしい

あわじ環境未来島 取組マップ

取組の一部を紹介します

エネルギーの持続

太陽光や風力、バイオマスなど、再生可能エネルギーを組み合わせ、エネルギーの自給自足を目指します。

農と食の持続

農業や漁業を新たに始める人が増え、安心安全でおいしい食を求めて多くの人が訪れる島を目指します。

暮らしの持続

人と人、人と自然のつながりを大切にし、誰もが生涯現役で暮らし続けられる島を目指します。

竹資源のエネルギー化

放置竹林の拡大を防止するため、竹をチップに加工し、バイオマスエネルギーとして活用しています。竹チップは、大型ボイラーを導入した温浴施設で使われています。
(洲本市)



廃校を利用した地域活性化の拠点づくり (のじまスコーラ)

廃校した小学校をカフェレストランとしてオープンし、農産物の加工・販売を行っています。
(淡路市)



地域資源を活かした地域活性化(北淡路)

生田地区は、蕎麦を中心とした地域活性化事業に取り組み、移住者の受け入れに力を入れています。五斗長垣地区は、五斗長垣内(ごっさかいと)遺跡と営農組合として生産している地域ブランド品「まるご玉葱」の売り出しにより地域を盛り上げています。また、周辺地域一帯を「北淡路里山」として、近隣同士で協力してガイドマップの作成や桜並木の整備に取り組んでいます。
(淡路市)



五斗長垣内遺跡

様々なバイオマスの複合利用

菜種油などの食用油など、生物由来の資源(バイオマス)を活用して燃料などに再利用し、資源のリサイクルを行っています。
(洲本市)



県立高校跡地に開校した吉備国際大学農学部と連携し、農業をはじめとする地域の産業について、地域の課題を広い視点で捉えることができる人材を育成します。(南あわじ市)



【卒業生の声】

大学では、実際に農業の現場で学ぶ機会があり、淡路島の農業への思いが強くなりました。卒業後は、仕事を通じて農業に携わる方々と直接かかわり、淡路島の農業についてさらに知識を深めていきたいです。そして、淡路島の農と食の素晴らしさや今後の課題などを発信していくようになりたいです。

水素社会の推進

再生可能エネルギーは天気などの条件に左右されやすいという弱点があります。そこで新しいエネルギーとして、水素が注目されています。水素を日常生活や産業活動で利活用する「水素社会」の実現に向けた研究が始まっています。



地域資源を活かした地域活性化(沼島)

観光客を乗せて運航する周遊漁船「おのころクルーズ」など、沼島の地域資源を活用し、漁業や観光などで交流を増やす取り組みを進めています。
(南あわじ市)



取り跡地等を活用した 規模太陽光発電所の整備

土取り跡地等の広大な利用されていない土地を活かし、大規模太陽光発電事業を実施しています。



EV アイランドあわじの推進

レンタカー事業者などに対する電気自動車(EV)導入の補助や、島内の充電器整備の促進により、電気自動車(EV)の普及を推進しています。



民参加による太陽光発電事業

住民参加で再生可能エネルギーを創り出すプロジェクトとして、住民が少しずつ資金を出して太陽光発電事業を実施しています。(淡路市)



デジタル技術を活用したコンパクトシティづくり

淡路市夢舞台の「サスティナブルパーク」において、デジタル技術を活用した多機能でにぎわいと生活感のあるまちづくりを進めています。サスティナブルパークは、環境省が選定する脱炭素先行地域の対象地域です。(淡路市)

地域新電力事業による 電力の地産地消

淡路市の株式会社ほくだんが新電力事業者と連携し、太陽光発電による再生可能エネルギーを公共施設等に一般的な電気料金よりも安く供給することで電力の地産地消を推進し、経済の循環を図ります。(淡路市)

淡路島への農業参入(北淡路先端ファーム)

県や市、公社が連携し、企業の農業参入を支援しています。(淡路市)

【取組事例】

社員食堂や給食などを運営している企業で、自社でつくった無農薬野菜で安心安全な食を提供するために、農地を開墾し、農業を始めました。



新規就農の推進

新規就農者を定着させるため地域でチームを作り、応援プランを作成し、情報発信を行っています。応援プランをもとに県や市、農業委員会などが応援体制を構築し、農業を始めたい人々を支援しています。

淡路島の海の自然環境保全

海の自然環境を守るため、「全島一斎清掃」や「3海峡クリーンアップ作戦」をはじめ、様々な団体がビーチクリーン活動を行っています。

また、昔から淡路島で愛されているシロチドリを絶滅の危機から守るために、「淡路島ちどり隊」を結成し、保全活動や島内小・中学校等で勉強会を行っています。



地域貢献型再生可能エネルギー事業の実施(フロートソーラー発電所)

地域と大学と地元の企業が連携し、農業用ため池の水面に太陽光パネルを設置し、「フロートソーラー発電所」を整備しました。ここで発電された電気は、固定価格買取制度(電力会社が再生可能エネルギーを一定の価格で買い取る制度)により売電され、その収入は、地域活性化事業などに活用されています。(洲本市)



あわじ市あわじ島まるごと食の拠点施設の整備 青菜恋来屋

「食を核とした都市と農村の交流拠点」をコンセプトとして、観光や商品開発の拠点となる直売所やレストランなどを整備して運営しています。淡路島の豊かな農水産物をまるごと楽しめる拠点として、島内外に向けて魅力をPRしています。(南あわじ市)



食のブランド「淡路島」の推進

「食」と「観光」を組み合わせたイベント等を開催することで、農畜水産業が盛んな淡路島のブランド力の強化をすすめています。また、新たな食文化を創造し、淡路島全体の活性化を図ります。



食のブランド「淡路島」
推進協議会



淡路島なるとオレンジ



「あわじ環境未来島構想」とは・・・

「国生みの島」「御食国」と呼ばれるように、歴史、文化、自然、食など、豊かな地域資源に恵まれた淡路島。ここで、私たちだけでなく次の世代、そのまた次の世代までが、自然とともにすこやかに暮らしていくけるような地域社会モデルを生み出そうと、住民、NPO、企業、行政などが連携して取り組んでいるのが「あわじ環境未来島構想」です。

淡路島の最大の強みは、エネルギーと食料を自給自足できる地理的環境にあります。これらの強みを活かして、「エネルギー」「農と食」「暮らし」の3つの持続を柱に『生命(いのち)つながる「持続する環境の島」』を目指しています。



	成果指標	当初(2010年)	現状(2021年)	目標(2050年)
エネルギーの持続	エネルギー(電力)自給率	8%	61.1%	100%
	二酸化炭素排出量(2012年比)	—	▲15.7%	実質ゼロ
農と食の持続	新規就農者数	36人/年	73人/年	80人/年
	再生利用が可能な荒廃農地面積	521ha	330ha	261ha
暮らしの持続	生活満足度(幸福度)	45.0%	70.1%	90.0%
	持続人口(定住人口+交流人口)	17万4千人	15万2千人	16万8千人

淡路島の未来を考えてみよう

みなさんはどんな淡路島に住み続けたいと思いますか？
私たちが住む淡路島が、生命つながる「持続する環境の島」として今以上に魅力のある島になるために、一人一人ができるることを考えてみましょう。

あわじ環境未来島

<https://www.awaji-kankyomiraijima.jp/>



Website



Instagram

このリーフレットは、国産の竹を原料とした紙を使用しています。